

八潮市立資料館編『れきナビーやしお歴史事典』

『新編武蔵風土記稿』にみる近世寺社一覧表(八潮市域村々と立野堀村)

凡例

- ・史料の記載順に掲げた。
- ・漢字は、村名を除いて、現在の正式な表記に関わらず、旧字体を新字体に直した。
- ・境内社や境内堂は太字で示した。

村名	寺社名	記事
八條村	氷川久伊豆八幡合社	村の鎮守とす、清蔵院持なり、 末社 弁天 天神 稻荷
	八條殿社	塚上に社を建、内に神体とて古碑二基を置、一は弘安七年(1284)、一は応安四年(1371)五月廿七日宗源禪門と彫れり(中略)塚上を平げし所より、石槨の著し様、古墳なること知らる
	浅間社	西勝院持
	第六天社	正光院持
	久伊豆社	(正光院持)
	稻荷社	村民持
	西勝院	新義真言宗、葛飾郡高久村密蔵院末、鶏羅山浄楽寺と号す、慶安元年(1648)寺領十五石を附せらる、本尊不動を安置せり、 聖天社 稻荷社 寮 不動を安ず
	大経寺	浄土宗にて古は京都知恩院末なりしが、後下総国小金東漸寺の末となれり、無量山浄光院と号す、慶安元年(1648)寺領七石を賜ふ、開山曉翁慶長十二年(1607)九月九日寂す、開基は関根兵吾と云、其子孫今も村民にあり(中略)本尊は阿弥陀を安置す、 稻荷社 観音堂 観音は坐像にて、長七尺五寸許、高雄文覚の作と云
	持昌院	禪宗曹洞派、足立郡安行村金剛院末、中島山と号す、開山は本寺二世充秀なり、永禄十年(1567)正月六日寂す、後旗下の士戸田五助が母、当寺を再興せしかば、これを中興開基とす、寛延三年(1750)四月十二日卒せり、 弁財天社 神体は古へ古利根川より、出現せしと云縁起あれど、採用すべきことなし、 稻荷社
	清蔵院	西勝院の末なり(中略)白幡山と号す、本尊大日を置、此寺もと村民五左衛門が屋敷内にありし庵なりしを、後に一寺となせり
	正光院	(西勝院末)本尊阿弥陀を置
	正蔵院	(西勝院末)地蔵を本尊とす
	前法寺	大経寺末なり、護国山安楽院と号す、天正三年(1575)の草創にて、開山山心慶長三年(1598)五月二十日寂、本尊地蔵を安ず、 稻荷社
	薬師堂	正蔵院持
観音堂	西勝院持	
正海庵	羽黒行人派の修験なり、鶴ヶ曾根村宝性寺配下、本尊大日	
鶴ヶ曾根村	久伊豆社	村の鎮守なり、薬王寺の持(後略)
	天神社	(薬王寺持)
	愛宕社	宝性寺の持
	第六天社	宝幢寺の持
	医王寺	新義真言宗、八條村西勝院末、瑠璃山地蔵院と号す、本尊薬師を安ぜり、開山は大永元年(1521)遷化せりといへど其名を伝へず
	宝幢寺	同宗(新義真言宗)、足立郡元木村吉祥院末、本尊正観音を安ず、天文三年(1534)の起立とのみ伝へり、 鐘楼 享保五年(1745)鑄造の鐘をかく、 観音堂 今廢れて再建せず、久伊豆社
	薬王寺	これも西勝院門徒、医王山と号す。本尊は薬師 太子堂
	法性寺	羽黒行人派、江戸日本橋音羽町普門院末、金剛山と号す、大日を本尊とせり、天正元年(1573)の起立とのみいひつたへり
	閻魔堂	(医王寺の持)
	虚空蔵堂	医王寺の持
二町目村	氷川久伊豆合社	村の鎮守にて、村持
	稻荷社	普門院の持
	神明社	西蓮寺の持
	西蓮寺	浄土宗、下総国小金東漸寺末、妙好山葵華院と号す、本尊は阿弥陀を安置せり、開山宗譽元龜元年(1570)示寂す、 弁天社
	普門院	新義真言宗、葛飾郡彦成村円明院の末、弘誓山と号す、不動を本尊とせり、 山王社
	来迎寺	浄土宗、西蓮寺の末、親縁山引接院と云、本尊弥陀
	本泉寺	日蓮宗、下総国平賀村本土寺末、妙福山と号す、本尊は三宝を安ぜり、開山日休寂年を伝へず 稻荷社
木曾根村	八幡社	村民の持なり
	普門寺	新義真言宗、葛飾郡彦成村円明院末(中略)大悲山観音院と号す、本尊は不動をおけり、開山大雲慶長三年(1598)九月十五日示寂す、 鐘楼 明和四年(1767)鑄造の鐘を掛、 観音堂

八潮市立資料館編『れきナビーやしお歴史事典』

	金蔵院	(円明院末)光林山と号す、不動を本尊とせり、開山遊存正保元年(1644)四月廿日寂す、 氷川社 村の鎮守なり
	正福寺	(円明院末)本尊薬師を安ず、古は寮なりしが、近来一寺となれりと云 稲荷社
	明王寺	(円明院末)こゝも近来一寺となれりと、本尊不動
	地藏堂	村持
	観音堂	(村持)
	不動堂	普門寺の持
川崎村	稲荷社	村の鎮守。円楽寺持
	山王社	(円楽寺持)
	専称寺	浄土宗、二町目村西蓮寺末、信明山阿弥陀院と号す、本尊阿弥陀を安ぜり、開山乗誉元和八年(1622)十一月十一日寂す
	円楽寺	天台宗。江戸浅草寺門徒、供養山と号す、大日を本尊とせり
伊勢野村	天神社	村の鎮守なり、光明寺の持
	神明社	村民の持なり
	光明寺	新義真言宗、葛飾郡金町村金蓮院門徒、霊水山淨静院と号す、開山祐栄万治三年(1660)示寂す、本尊阿弥陀
	専修庵	釈迦を安ず、村民持
大瀬村	氷川社	村の鎮守なり、宝光寺持 末社 稲荷
	浅間社	(宝光寺持)末社 天神 弁天
	弁天社	村民持
	宝光寺	新義真言宗、葛飾郡金町村金蓮院の末、大中山青竜院と号す、本尊大日を安ず
	法積院	同じ門徒(金蓮院末)、本尊薬師を安置せり
	自性院	是も同門徒(金蓮院末)、薬師を本尊とす、此二ヶ寺皆小寺にて、山号・寺号もなく、庵と齊しきものなり
	延命院	新義真言宗、葛飾郡小松村正福寺の門徒、本尊延命地藏を安ず
	観音堂	村民の持
	大日堂	(村民持)
古新田	稲荷社	福蔵院持、村の鎮守とす
	天神社	(福蔵院持)
	福蔵院	新義真言宗、葛飾郡金町村金蓮院末、薬王山最勝寺と号す、本尊弥陀、立像長三尺余、春日の作と云、法流開祖伝灯宝曆年中(1751~64年)示寂とのみへ、其余のことは詳ならず、 薬師堂
垢村	稲荷社	村の鎮守にて、浮塚村大聖寺の持なり
	常念寺	浄土宗、下総国小金東漸寺の末、建立山無辺院と号す、開山白雲、寛永十六年(1639)八月十六日示寂す、本尊阿弥陀なり 弁天社
浮塚村	氷川社	村の鎮守なり、大正・長泉両寺の持なり 末社 稲荷社
	大正寺	新義真言宗、足立郡西新井村総持寺の末、浮塚山と号す、本尊弥陀なり
	長泉寺	同宗(新義真言宗)、八條村西勝院門徒、不動を本尊となせり
大原村	稲荷社	村の鎮守にて、円照寺の持 末社 天神 金毘羅 三峰
	円照寺	新義真言宗、八條村西勝院末、大原山長宗院と号す、本尊大日を安ず
大曾根村	八幡社	村の鎮守なり、福寿院持、土人の口碑に、昔は末社の稲荷を以て鎮守とせしが、元龜二年(1571)甲冑せし八幡の像を勧請して鎮守とせり、其後延宝二年(1674)地頭森川撰津守重房、新に束帯の八幡を勧請して、元の像は福寿院に安ずといふ、 末社 稲荷 天神
	福寿院	新義真言宗、八條村西勝院末、光林山満蔵寺と号す、本尊弥陀を安ぜり、行基の作、是は鎮守八幡の本地仏にして、地頭森川氏の家人根塚善左衛門定武と云者、奉納せし由、坐像にて長一尺五寸許 観音堂 元文四年(1739)三月地頭より起立せり、信州更級郡初瀬寺の写しなりとて、初瀬堂と号せり 太子堂
	蓮台寺	同宗(新義真言宗)、柿木村東漸院門徒、本尊不動を安ず、元柿木村の民開基して、纒の庵なりしが、彼村の廢寺号を以て此庵に移して、今の寺号となせりといふ、 観音堂 正観音なり
	庵	浄土律宗、荏原郡中目黒村長泉院持、本尊地藏を安置せり
大曾根新田	(なし)	
上馬場村	天神社	村の鎮守なり、 観音寺 の持 末社 稲荷社
	観音寺	八條村西勝院末、新義真言宗にて、正保山と号す、阿弥陀を本尊とせり、開山秀善、天和二年(1682)寂す、 地藏堂
中馬場村	諏訪社	村の鎮守なり、妙光寺の持、同寺に蔵する社伝あり、其略に信濃国の住人高梨監物仲光は(中略)こゝに社を建て、永く当初の鎮守とせり、これ延徳三年(1491)正月廿七日のことにして、後永禄年中(1558~70年)天照大神・八幡の二座を合祀せる由を載す(後略) 末社 稲荷社
	山王社	上馬場村観音寺の持

八潮市立資料館編『れきナビーやしお歴史事典』

	妙光寺	日蓮宗、池上本門寺の末、長光山と号す、開山日正永正四年(1507)九月朔日寂せり、本尊三宝祖師、祖師は日朗の作にて五寸許の坐像なり、像の後ろに弘安五年(1282)九月廿五日迄造立法師日朗と記し、殊勝の尊体なり 稲荷社 弁天社
	山王塚	村持
西袋村	氷川社	鎮守なり、蓮華寺持なり(中略) 末社 第六天 稲荷 氷川
	稲荷社二宇	(蓮華寺持)
	山王社	(蓮華寺持カ)
	蓮華寺	新義真言宗、柿木村東漸院末、薬王山慧日院と号す、本尊不動を安ぜり、開山源忠寛文九年(1669)寂せり、 薬師堂 八幡諏訪合社
	正道庵	百観音を安ぜり、村民の持
柳之宮村	氷川社	鶴ヶ曾根村宝勝寺の持なり、 末社 第六天 稲荷
後谷村	八幡社	村の鎮守なり、西福寺の持(後略)
	山王社	(西福寺持)
	西福寺	新義真言宗、八條村西勝院門徒、善心山と号す、本尊不動中興の僧祐伝は、正保二年(1645)十月二十一日寂せり 天神社 古き勧請なりといへど、其詳なることを知らず
小作田村	稲荷社	村の鎮守なり、華蔵院の持
	立正寺	浄土宗、二町目村西蓮寺の末、無量山と号す、本尊阿弥陀を安ぜり
	長安寺	禅宗曹洞派、足立郡安行村金剛寺末、興福山と号す、本尊正観音を安ぜり、開山高安示寂の年月詳ならず 山王社
松之木村	稲荷社	村の鎮守なり、勝運寺の持 末社 弁天 天神
	勝運寺	新義真言宗、柿木村東漸院門徒、 牛頭天王社 観音堂 正観音を安ぜり
立野堀村	稲荷社	村の鎮守なり、妙学院持(中略) 末社 疱瘡神
	稲荷社	(妙学院持)
	第六天社	(妙学院持)
	天王社	慈尊院の持
	慈尊院	新義真言宗、別府村慈眼寺末、清滝山真福寺と号す、本尊大日を安ぜり、開山を秀長と云、寂年は失へり 観音堂 正観音を安ぜり、 地藏堂
	妙学院	本山修験、葛飾郡幸手不動院配下、本尊不動を安ぜり、立像長一尺、智証の作なりと、開基は慶長八年(1603)と伝ふれど、其法号・示寂の年月を失へり 不動堂 妙学院の持
伊草村	天神社	村の鎮守なり、円蔵院の持
	円蔵院	新義真言宗、柿木村東漸院門徒、本尊大日を安ぜり

出典 蘆田伊人編集校訂・根本誠二補訂『大日本地誌大系16 新編武蔵風土記稿 第10巻』(雄山閣、1996年)154～167ページ